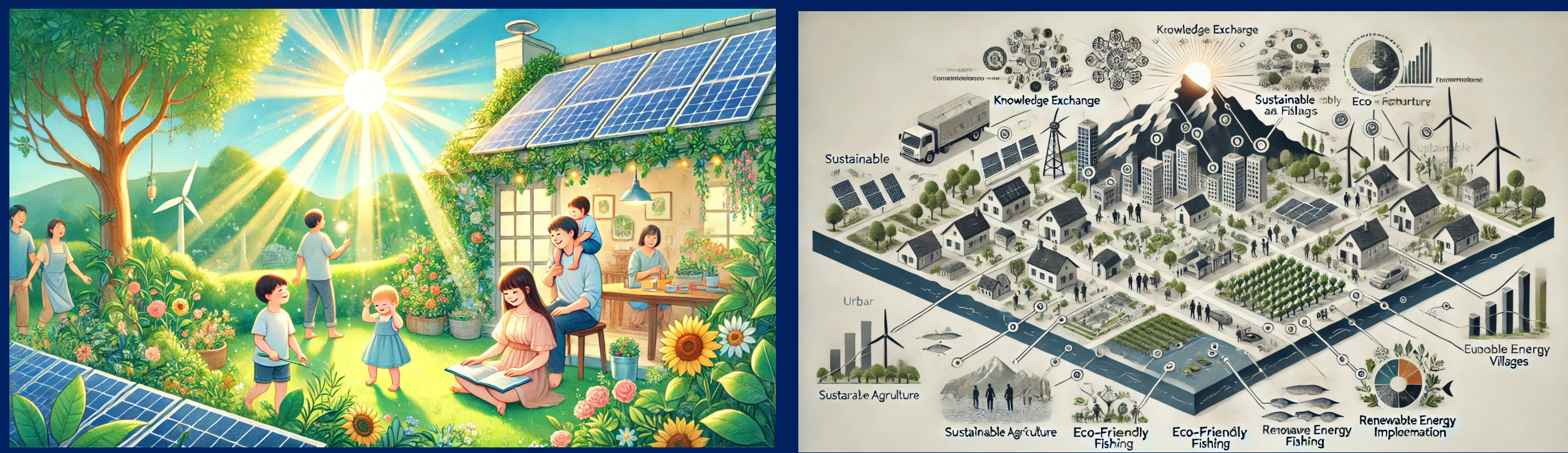


農山漁村と都市の多世代共創による「子育て」の魅力発見プロジェクト
農山漁村の文化と自然の恵み子育ての魅力づくりにつなげるプロジェクト-
京都大学大学院 エネルギー科学研究科 代表 尾形清一

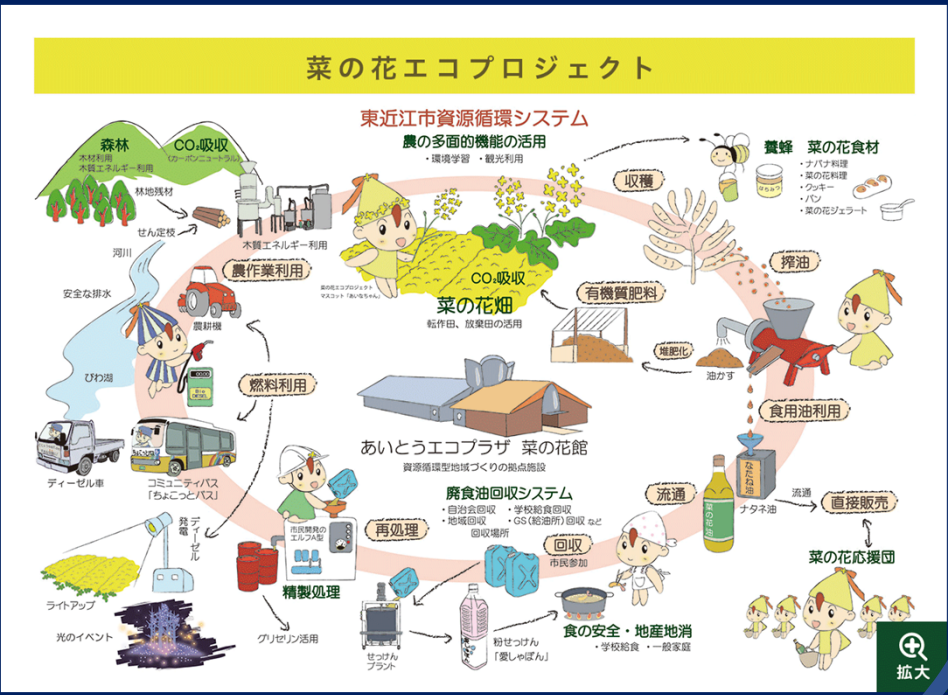
今年度のプロジェクトでは、
2024年4月から学部1回生と
農山漁村と都市の多世代共創による持続可能な社会などの在り方について議論・調査した

概念実証（POC）のために以下の2点を糸口に学生達と考えた



再生可能エネルギーによる子育て支援？ 農山漁村と都市の関係を考える

地域資源の循環とまちづくりに関する事例調査（日本）



再生可能エネルギー普及と地域活性化について
たんたんエナジー株式会社 木原社長による講演



食や農業との問題に注目することに

農業国タイにおける事例などを解説



議論の結果

農山漁村と都市の多世代共創による「子育て」の
「POC」キーワード 「給食」

- 0：給食を通じた子育て支援が公共政策として有用
- 1：京都府内の小学校の給食の食材が、京都府内の農山漁村から供給される
- 2：地域の食材で給食を提供することで、都市部からの農山漁村への経済支援となる。
- 3：小学生が、持続可能な農業（有機農業等）の体験を通じて地域内経済循環に気づく

給食に関わる地産地消の海外事例

国名	プログラム名	概要	ポイント
アメリカ合衆国	Farm to School & School Garden プログラム	全米各地で実施されている「Farm to School」プログラムの一環として、学校菜園（School Garden）を設置し、子どもたちが野菜や果物を育て、その一部を学校給食に取り入れる取り組みが多く見られます。（maff.go.jp）	- 学校菜園を通じて、農業の基礎知識や環境問題、栄養について実践的に学ぶ。- 地域の農家からの指導や企業・NPOの協賛を得て、施設や工具、種子などを確保。- 収穫物は給食や校内イベントの食材として活用され、寄付や地域住民への販売（バザー）を行う学校もある。
イギリス	School Garden & Allotment（アロットメント）	イギリスでは、家庭菜園区画（アロットメント）を学校と連携させ、児童・生徒が放課後や授業の一環で野菜づくりを行い、その一部を給食や試食会で使用する取り組みが行われています。（maff.go.jp）	- カリキュラムに「Food Technology（食と栄養の科学）」を取り入れ、栽培から調理・消費まで一貫して学ぶ。- 地元自治体や地域住民も参加し、収穫した作物の調理ワークショップを開催。- 学生の主体性を尊重するプログラムが多く、収穫した野菜やハーブを学校内の「クッキングクラブ」で調理し、試食・学内販売する例もある。
フランス	BioCanteens+農業体験	フランスの一部自治体では、学校給食のオーガニック化・地産地消を進める「BioCanteens」プロジェクトに合わせて、子どもたちの農業体験をプログラム化しています。（maff.go.jp）	- 地域農家や有機農業者を招いてワークショップを開催し、畑や果樹園での作業体験を行う。- 生徒たちが植えた野菜や果物を給食に導入し、地域の食文化や持続可能な農業を学ぶ。- 「食育+環境教育」が密接に結びついたプログラム設計が特徴で、行政とNPO、農家の協働体制がしっかりしている。



給食のサプライチェーンから
都市と農山漁村の関係を再構築する

今後は、亀岡市の取組のような学校や保育所などの給食にオーガニック米を導入する有機米プロジェクト等の環境性や持続可能性などを調査し発展させる方策を考えます。